様式第１号（第１０条関係）

2023 年度業務実績報告書

提出日　2024 年　1 月　11 日

１．職名・氏名　准教授・藤野秀則

２．学位　博士、専門分野　エネルギー科学、授与機関　京都大学　、授与年　2008

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　当科目名（単位数）　主たる配当年次等 情報管理論（2 単位　毎年開講）　3 年生
②　内容・ねらい（自由記述） 「情報の管理を通じた人と組織の管理」というコンセプトの理解を目的として、心理学や情報学、コミュニケーション科学といった学際的な視点から、情報と人や組織の行動・活動の関係を学ぶ。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 昨年度まではオンデマンドでも対応可としたが、今年度は対面講義のみとした。ただし、毎回講義内容に即した課題については Google Classroom を利用して出題した。課題については学生の負担を考え、選択問題を出題した。合わせてコメントや質問の収集を行い、寄せられた質問への回答を翌週の講義の中で行う形式をとった。質問内容はなかなか興味深く、当方にとっても勉強となる指摘も寄せられることもあった。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 経営情報論（2 単位　毎年開講）　2 年生
②　内容・ねらい（自由記述） 基本的な統計分析手法を Excel や Google Spreadsheet、あるいは統計分析ソフト「R」を用いて行う方法の解説と演習をおこなった。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） これまでの講義内容を大幅に見直し､パソコンを持参してもらっての演習形式の講義としたが、履修登録した受講生が 8 名、しかも実質的に講義に出席していた受講生が 6 名と思いのほか少なかった。その分、手厚く個別に対応することができた。来年度はコース制が適用される学年が対象となるため、受講生は増えるだろうと予想されるので、今年度よりも受講生は増えると予想される。その場合、個別対応には限界があると考えられるので、今年度の経験を踏まえて、大人数対応の方法を検討していきたい。
①　当科目名（単位数）　主たる配当年次等 演習 1（4 単位　毎年開講）　3 年生
②　内容・ねらい（自由記述） 情報管理論や安全管理論の基本的な考え方を習得するとともに、研究を進めていく上での基礎スキルを身につける。また、理工系も含めた関連する他分野に対するリテラシーを築く。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 3 人 1 グループに分けて，小研究を行ってもらい，後期からの本格的な研究にスムーズに入れるように努めた。後期はゼミコン出場に向けた研究の進捗状況報告を中心にした。さらに、ゼミコン後には、行った研究について卒業論文に準じたフォーマットで研究論文を執筆してもらい、それをもとに LaTeX を用いた論文執筆指導も行った。

① 当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習 2（4 単位　毎年開講）　4 年生

② 内容・ねらい（自由記述）
自分たち自身で PDCA を回すスキルを身に着けてもらうことを目的に、各自でテーマを立てて、自分たち自身で研究を組み立てていくという実践を行った。また、論文執筆を通じて論理的思考や論理的な文章とはどういうものかについての指導を行った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
年生と合同でゼミを開きながら、３年生を４年生が指導する、という体制を作れるよう、できるだけ学生主体でのゼミ運営を行うように心がけた。ゼミ中は教員は意見を基本的に出さず、指導はゼミ後の時間がゼミ前の事前指導という形で行う形とした。卒業論文の執筆に関して、昨年度の演習１の際に使った LaTeX での執筆をしてもらった。

① 当科目名（単位数）　主たる配当年次等
外書講読 1（2 単位　毎年開講）　2 年生

② 内容・ねらい（自由記述）
ある程度まとまった量の英文をよむスキルと、それをまとめて発表するスキルを身に着けてもらうことを目的に、5 名一組で組織心理に関する論文を読んでもらい、その内容をパワーポイントをつかってプレゼンテーションしてもらうというやり方を取った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
世界各国の航空や鉄道分野での過去の事故について各グループで 1 件ずつ取り上げ、Wikipedia 英語版のページをそれぞれ読んでもらった。精訳することよりも全体の主張をつかんでもらうことを目的に、訳を発表するのではなく、内容をプレゼンテーションしてもらった。特に事故がなぜ起きたのか、について考えてもらうことを通じて、拙い組織管理んちういて考えてもらえるように指導した。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
経営情報特論演習 II（4 単位（前年度後期～本年度前期）毎年）　大学院生

② 内容・ねらい（自由記述）
各自の修士研究について、計画の精緻化と、具体的な調査の実施、さらに得られた結果の分析を行うといったような、研究活動を各自で進めてもらえるようにする

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
今年度は 2 名の学生が対象であったが、1 名は社会人であったため（もう 1 人は私費留学生）、それぞれ個別に日程調整しながら対応した。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
専攻演習Ⅲ　経営情報特論演習 III（4 単位　毎年開講）　大学院生

② 内容・ねらい（自由記述）
各自の修士研究について、各自で必要な調査を実施し、修士論文としてまとめる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
2 名の学生が受講生であったが、基本的にそれぞれのテーマに従って個別に研究や論文執筆指導を行った。特に私費留学生のほうに対しては、特に論理的な文章を書くにあたっての日本語の指導を個別に時間をかけて行った。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
健康科学特論（4 単位、前期）　大学院生
うち、第 7 回～9 回

② 内容・ねらい（自由記述）
ヒューマンファクターやヒューマンエラーについて､実際の事故事例を参考にしながら理解を深めてもらう

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
2 名の社会人学生に対しての講義だった。単に一方的に解説していくのではなく、実際の医療現場の様子について逆に話を伺ったりしながら、双方向性をもたせた講義を行った。

(2)その他の教育活動

内容

恒例の京都大学下田研究室との合同ゼミを今年も開催した。京大生に臆することなく積極的に意見をだしていた。また京大生からもこちらの研究についての建設的な意見を多数もらうことができた。

経済学部のゼミナールコンテストについては、例年通りに開催することができた。ゼミコンに向けた研究ということで、学生のモチベーション向上には明らかにプラスの効果があるため、来年度以降も継続したい。

看護福祉学研究科（看護マネジメント学領域）の社会人学生の修士研究について、研究内容と私の専門分野との親和性から、協力の依頼を受け、2 か月に一度ほどのペースで個別に研究ミーティングを行い、研究の進捗確認や研究内容についての議論を行った。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

【　本】

②学術論文（査読あり）

【　　本】

③その他論文（査読なし）

【　本】

④ 学会発表等

藤野 秀則, 大久保 賢哉, 柿本 瑞穂, 佐藤 優希, 高橋 侑子, 松本 美咲, 和田 颯太：“AI 監視員と人の監視員とでの監視員からの警報に対する受け手の反応の違いの検討”，ヒューマンインタフェース学会第 206 回研究会

狩川 大輔, 吉田 悠, 高橋 明子, **藤野 秀則**, 三浦 直樹, 青山 久枝, 伊東 直洋：“良好事例からの効果的な学習の実現に向けた課題”，ヒューマンインタフェース学会第 206 回研究会

藤野秀則, 有田広美：“病棟看護師が看護基礎教育で修得しておいてほしいと考える医療安全の内容-Web 調査から－”，医療の質・安全学会第 18 回学術集会

藤野秀則：“そもそも組織が学ぶとはどういうことなのか”，安全工学シンポジウム 2023

【　4　件】

⑤ その他の公表実績

ヒューマンインタフェース学会研究会賞受賞（2023.3）

【　1　本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

- 株式会社原子力安全システム研究所との共同研究費
- 学内競争的研究資金　県大戦略的課題研究推進支援※看護福祉学部有田教授との共同研究

(3)特許等取得

(4)学会活動等

所属学会： ヒューマンインタフェース学会、産業・組織心理学会、日本人間工学会、日本原子力学会、医療の質・安全学会、医療安全心理・行動学会

- ヒューマンインタフェース学会 評議員　（2021 年度～現在）
- ヒューマンインタフェース学会 研究会運営委員会委員　（2019 年度～現在）
- ヒューマンインタフェース学会安全管理支援技術専門研究委員会幹事（2017 年度～現在）
- 日本人間工学会　安全人間工学委員会（2021 年度～現在）
- 2023 年度安全工学シンポジウム実行委員（2022~2023）
- ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2023 実行委員（2022～2023）
- ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2024 実行委員（2023～2024）

５．地域・社会貢献活動

- 福井県原子力安全専門委員会委員
- 公益財団法人　若狭湾エネルギー研究センター「新産業創出シーズ発掘事業」補助金審査委員
- 一般社団法人 原子力安全推進協会 HPI 専門講演会での講演（2023.12.18）

６．大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- 教育・研究委員会委員
- 経済学部１年生相談担当教員
- 経済学部情報教育作業部会委員

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など